

# AMCoR

Asahikawa Medical College Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

皮膚科の臨床 (2003.03) 45巻3号:390～391.

Cutaneous Focal Mucinosisの1例

飛澤慎一, 高橋英俊, 山本明美, 飯塚一, 岸山和敬

Mini Report

## Cutaneous Focal Mucinosis の 1 例

飛澤 慎一\* 高橋 英俊\* 山本 明美\*  
飯塚 一\* 岸山 和敬\*\*

症 例 34 歳, 男性

初 診 1998 年 3 月 18 日

主 訴 背部の結節

家族歴 特記すべきことなし。

既往歴 腰部椎間板ヘルニア (1996 年に入院治療)

現病歴 1996 年夏頃から右背部に紅褐色小豆大の無症候性の丘疹を自覚していた。1998 年 3 月 18 日, 北見赤十字病院皮膚科を初診した。

現 症 右背部に, 弾性軟・有茎性の小豆大の結節を認めた (図 1)。表面は平滑で下床との癒着はなかった。

経 過 軟性線維腫を疑い, 単純切縫術にて摘出した。切除後 2 年経過するが現在まで再発はない。

病理組織学的所見 皮膚面から突出した比較的疎な線維性腫瘍である (図 2-a)。表皮には著変なく, 表皮下から真皮全層にかけてびまん性に好塩基性の粘液様の無定型物質の沈着を認める (図 2-b)。沈着物はアルシアンブルー染色 pH 2.5 で陽性, トルイジンブルー染色で異染性を示し, ムチンの沈着と考えられた。睾丸ヒアルロニダーゼ消化試験で沈着物は消化され, ヒアルロン酸が主体であることが確認された。

### § 考 察

cutaneous focal mucinosis (以下 CFM) は, 1966 年 Johnson & Helwig により提唱された疾患概念である<sup>1)</sup>。顔面・軀幹・四肢に生じる無症候性の丘疹または結節で, 病理組織学的に真皮中層にムチンの沈着と線維芽細胞の増生を認め, 境界

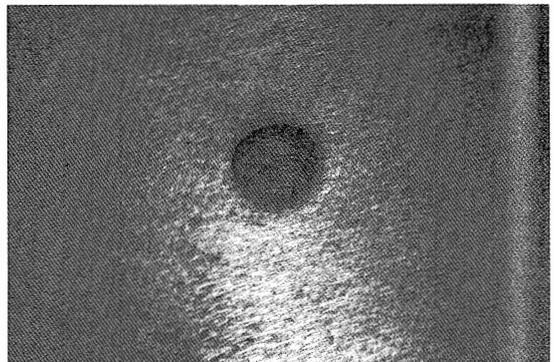


図 1 右背部: 弾性軟・有茎性の小豆大の紅褐色結節

は不明瞭で被膜を欠く。鑑別診断として cutaneous myxoma, cutaneous myxoid cyst があげられるが, 安井らはこの 3 疾患は, 成育時期・発生部位の違いに基づく差異を示しているにすぎず基本的に同一の疾患単位であるとしている<sup>2)</sup>。

本邦における CFM は, 大塚らによると中年に好発し, 男性に多く, 発生部位は頭部から下肢までほぼ均等に発生し単発であることが多い<sup>3)</sup>。臨床像は正常皮膚色ないしは紅褐色の半球状ないしはドーム状の結節であるが, 自験例のように有茎性のものも報告されている<sup>4)</sup>。

CFM の本態は真皮における線維芽細胞の増殖とヒアルロン酸産生亢進と考えられている。ヒアルロン酸産生亢進のメカニズムに関しては不明で

\* Shinichi TOBISAWA, Hidetoshi TAKAHASHI, Akemi YAMAMOTO & Hajime IIZUKA, 旭川医科大学, 皮膚科学教室 (主任: 飯塚 一教授)

\*\* Kazunori KISHIYAMA, 北見赤十字病院, 皮膚科, 部長  
〔別刷請求先〕 飛澤慎一: 旭川医科大学皮膚科 (〒 078-8510 旭川市緑が丘東 2 条 1 丁目 1 番 1 号)  
〔キーワード〕 cutaneous focal mucinosis

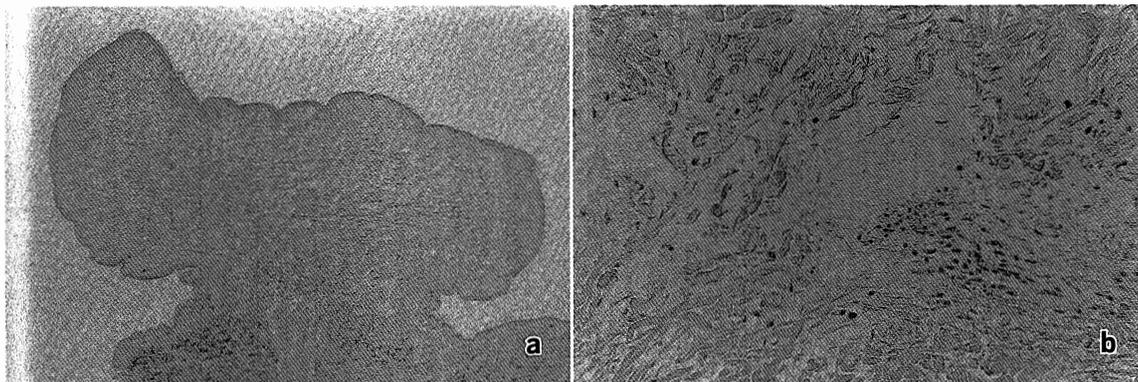


図2 病理組織像

- a: 弱拡大; 表皮下から真皮全層にかけてびまん性に、好塩基性の粘液様の無定型物質が沈着。  
 b: 強拡大; 粘液基質の中に紡錘形細胞を認める。

あるが、機械的刺激<sup>5)</sup>、熱傷<sup>6)</sup>、慢性関節リウマチ等、各種炎症性疾患におけるサイトカインの関与<sup>37)</sup>などが推察されている。自験例では入院加療を要する腰部椎間板ヘルニアがあり、下肢の知覚障害を伴っており、仰臥位での安静臥床による背部への慢性的な刺激が想定される。辻口ら<sup>8)</sup>は、機械的刺激による組織の伸展・圧迫がヒアルロン酸の産生を促進すると指摘しており、自験例の病変形成においても機械的な刺激が関与した可能性が高い。

本論文の要旨は、日皮学会第342回北海道地方会にお

いて報告した。

(2002年10月22日受理)

#### — 文 献 —

- 1) Johnson WC, Helwig EB: Arch Dermatol, **93**: 13-20, 1966
- 2) 安井由美子ほか: 日皮会誌, **95**: 1523-1534, 1985
- 3) 大塚 俊ほか: 臨皮, **54**: 631-633, 2000
- 4) 野田俊明ほか: 皮膚病診療, **12**: 691-694, 1990
- 5) 手塚匡哉ほか: 皮膚臨床, **38**: 929-932, 1996
- 6) 松岡芳隆ほか: 皮膚臨床, **34**: 203-206, 1992
- 7) 菅谷 誠ほか: 皮膚臨床, **41**: 1345-1347, 1999
- 8) 辻口義明ほか: 臨皮, **29**: 755-759, 1975